

（枕草子③）

枕草子 ↓

時代

冬はつとめて。雪の降りしきは、
ふぶきにあらざ、霜のいと白きも、
またなからずともいと寒きに、火など
急ぎおこして、炭もて渡るもいと
つきづまし。谷に降りて、ぬるく
ゆるびもていけば、火桶の火も白き
灰がちになりてゆろし。

